



研究校 駒ヶ根市立赤穂中学校

共同研究者 高柳充利（信州大学 准教授）

テーマ

「問い応え続ける」  
～結び合いの中で生きる個～

日常にあるものを磨き、実践に結びつける

「先人たちがどんな風に物事と向き合ってきたか。その中で生まれてきた教科学習や学校活動である。人間の生活とかかわりのない教科はない」高柳先生に学校訪問していただいた折、教えていただいた言葉です。

必要だからその教科や活動が生まれた。本来、学んだり活動したりすることは楽しいはずであると改めてご教示いただきました。この楽しさを実感するために主体的に学んでいく生徒が育つための追究をすることを通して、改めて生徒の内から湧き出る「問い」や「ねがい」が大切であると実感しながら今日まで授業改善に努めています。

また、「先生の何気ない生徒とのやり取りを日常的に行えていることを感じる」、「生徒に強制的に伝えるのではなく、生徒の思いを受け取り適切に投げ返すことができる雰囲気が生徒の学びにつながっている」、「先生の身のこなしが生徒の安心につながり、対話的な学びに危うさがない」高柳先生から教えていただいた赤穂中学校の先生方の強みです。

こうした赤穂中学校を支える先生方の強み、赤穂中学校がこれまで培ってきた風土があるからこそ、「研究のための研究ではなく日常的な実践と結びつけるために」、特別なことをするのではなく日常にあるものを磨く。そのための、ふらっと参観とリフレクションの時間の充実に努め、「探究的な学びを全ての教育活動に汎化<sup>はんか</sup>する」ことに着目しながら、日々の授業実践を積み重ねています。

参観していただく先生方にも、「特別なことをしているわけではない。でも子どもたちも先生も探究的にその時間の生活をつくろうとしている赤穂中学校の日常」を見ていただければと思います。



共同研究者 高柳先生から

生徒が堅くなり過ぎず、生徒が濃密に関わり合う活動を大切に、子どもたち同士で個と個が全方位的に関わりたい、待っているという雰囲気を当日の授業で感じたいと思います。

～日程～

- ① 参加者受付 12:40～13:00
- ② 開会式 13:10～13:30
- ③ 授業公開 13:40～14:30
- ④ リフレクション  
14:40～15:20
- ⑤ 対談（対話）  
15:30～16:20
- ⑥ 閉会式 16:20～16:25